

2024 年度 医療事務学科 第2回教育課程編成委員会議事録

1. 日 時:2025 年 3 月 21 日(金) 15:30-16:30

2. 場 所:YIC 情報ビジネス専門学校 2 階応接室

3. 参加者: 兼重 顕治 様

(医療法人協愛会 阿知須共立病院 事務部経営企画室人材開発グループリーダー)

日當 泰浩 (事務長) 河津 道正(副校長) 森野 茂弘(教務課長)

豊田 菜摘(教務係長) 岡屋 ちひろ(学科長) 澤谷 久美(教員)

4. 次 第

ア. 副校長挨拶

イ. 委員紹介

ウ. 今年度の取り組みについて(資料1)

①検定取得

②就職について

③インターンシップについて

④電話対応コンクール

⑤第1回教育課程編成委員会にて挙げられた課題について

⑥2025年度の取り組み

5. 詳細内容(敬称略)

ウ. 今年度の取り組みについて(資料1)

岡屋:医療事務学科の在籍者は2年生が期首 14 名、期末 14 名で先日全員卒業した。1 年生は期首 13 名、期末13名で全員が進級する。次年度新入生は 9 名の予定。

①検定取得

岡屋:検定取得率は表の通り。2年次受験した医師事務作業補助技能認定試験と医療事務技能審査試験(歯科)、診療報酬請求事務能力認定試験は目標取得率に達しているが、介護事務管理士技能認定試験が目標取得率を達成していない。内定先への実習期間と被っているため、実習へ行っていた学生の知識の定着が課題。

1年生は☆マークの目標資格である検定試験すべて取得済み。ビジネス系の検定試験の取得率については表の通りのため、説明は省略。

②就職について

岡屋:まず内定率は 14 名中 14 名内定で 100%を達成している。だが進路決定は 14 名中13名で進路決定率 92.8%。1名については欄外に記載した通り正社員ではなくアルバイト・パートでの就職活動へ変更している。内定先へ実習中に体調等のこと

もあり、学生自身が働き方を考えた結果の内定辞退。進路決定した 13 名については病院 4 名、診療所 6 名、調剤薬局 2 名、介護施設 1 名と全員が業界内の就職となった。

③インターンシップについて

岡屋：2年生は夏にインターンシップを実施。1年生は先週まででインターンシップが終了。ただ、1名については授業日数が不足していたため補講を 3 月 13 日まで実施。学生本人と話し合い、春季インターンシップは参加せず、2年生の夏季インターンシップに参加をすることになった。また、この学生については補講が終了したことで無事に進級が決定している。

④電話対応コンクール

岡屋：今年度も電話対応コンクールに2年生 8 名が予戦を突破し、本戦に出場している。うち1名が敢闘賞を受賞。次年度も電話対応には力を入れていく。

森野：ここまでの中で質問や意見はあるか。

兼重：次年度入学学生の人数がさみしいが、原因はあるか。

岡屋：現在、全国的に医療事務学科の募集が苦戦している。また、医療業界を目指す学生も減少している。

河津：補足すると高卒の就職状況がとてもいい。高校で就職が決まっているため、今までは就職が決まっていなかった学生の専門学校入学が減っている現状。特にビジネス系は苦戦している。

兼重：人員については医療・介護業界ともに賃上げが課題となっている。病院も6割赤字だが、医療業界が盛り上がらないと人員も集まらない。病院でも IT 化を進めていくようになっているが、その中で現場とシステム担当者の橋渡しとしてお互いの要求をわかりやすく翻訳する存在がいらない。事務員でその役割を担える人材がいればいいが、現状いない。

森野：もし募集するなら部署はどこになるか。

兼重：当院は事務員ではなく院内 SE で募集をかけている。

⑤第1回教育課程編成委員会にて挙げられた課題について(資料 1、2、3)

岡屋：前回の委員会にて 2年生前期科目である診療報酬請求事務科目で取得を目指している診療報酬請求事務認定試験が今年の 12 月で終了するにあたってこの科目に代わる科目を検討していた。DPC 制度を学ぶ科目を検討していたが、前回の委員会での意見から DPC 制度を学ぶ科目の設定と検定取得はせずに、医療事務(医科)科目で基礎知識を習得することを考えている。

また、変更内容としては介護事務学科を新設することとした。理由としては2年生後期に医療事務総合演習科目で授業を展開し、検定試験は 12 月か1月に受験と知識を習得する時期が遅かったため、内定先で活用することが難しかった。また、今回の進路決定先としても介護施設を選んだ学生がいたため、職業選択の段階で知

識を習得するためにも前期科目として新設することとした。

もう1点変更としてはドクターズクラーク科目を既存の 90 コマから 120 コマへと変更する。これはドクターズクラーク業務としてデータを扱うこともあるため、1年生次に学ぶ検定試験を目的としたパソコンの授業ではなく、演習としてより実践に近い内容を学ぶための時間の確保する目的がある。実際に今回、周東総合病院に就職した学生はドクターズクラーク職としての採用となったため、今後も採用時にドクターズクラーク職に就く学生がでてくると思う。

⑥2025年度の取り組み

岡屋：2025 年度の取り組みとしては、まず介護施設見学を考えている。場所は YIC グループである希望苑に依頼する予定。先ほどの介護事務科目の新設と繋がるが、職業選択のために実際の介護施設を見学することで、病院等との施設や働き方の違いを理解することを目的としている。また、他の取り組みとしては医学、薬学知識の習得を YIC 看護福祉専門学校の非常勤講師に依頼をしている。

森野：⑤⑥について何か意見等はあるか。

兼重：今回、介護施設に就職した学生がいるが、介護施設の業務は施設関係のことも担当することになる。病院はセクションわけがあるが、介護施設はセクションわけがなく事務は全部まとめてやるという、かなり鍛えられる分野だと思う。ぜひ、数年後に介護事務の講話をしてもらおうと学生にもかなり勉強になる部署なので、その学生には頑張ってほしい。当院でもドクターズクラーク職は募集しているが見つからない。現状は適性がありそうな事務員が職種を変わっている。最初からドクターズクラーク職で就職できるといい。業務内容も医師の癖を理解すれば対応しやすくなる。

澤谷：医療用語がわからないとインターンシップ中に自覚したり、担当者から指摘された学生がいた。そのこともあり、医学、薬学の知識習得をさせたいが、医療事務学科の常勤講師だと対応ができない分野のため、YIC 看護福祉専門学校から非常勤講師に依頼している。

森野：その他に意見等はあるか。

岡屋：本日欠席の道永様から事前に意見をいただいている。パソコン系の資格を取得しているなら、IT パスポートも取得目標の検定試験に付け加えてはどうかという意見。

森野：このITパスポートは先ほどの橋渡しの件につながるのではないか。

河津：他学科の教育課程編成委員会の際、理系転換で話題に挙がったが、システム屋さんと話ができる人が必要。以前あった徳山の学校では医療事務学科でもITパスポートを受験していた。医療事務学科の学生は勉強熱心なので実は情報系の学科よりもITパスポートの合格率が高かった。

豊田：他学科との差別化が必要だと思う。情報ビジネス科で病院のシステム担当職種に就職をした学生がいるが、そこまでのレベルが必要なのか。学科として医療事務学科はどこまでの範囲をやるか、どのレベルまで身に着けるかという差別をしていく。

兼重:受験する検定試験が多い中、詰め込みすぎにならないかが心配。

岡屋:まずは情報系の他学科にITパスポートを取得するためにはどのくらいの勉強量と時間数が必要かヒアリングを実施してから検討をしてみる。

6. 次回の開催について

2025年 9～10 月頃予定。